

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4472800343		
法人名	社会福祉法人 玖珠会		
事業所名	グループホーム 笑みの里①		
所在地	大分県玖珠郡玖珠町大字大隈322番地の2		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和2年10月12日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和2年5月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設の建物は自然に恵まれた場所に立っており、周囲一面に遠くの山々や畑、田んぼが望まれ一年を通して季節が楽しめます。施設内は共有スペースが多く、広々として光や風が入り、居心地良く生活ができるような造りです。ご利用者様一人一人の尊厳を重視し、一人ひとりの生活スタイルやできる事、出来ない事、好きな事、嫌いな事などを把握してケアを行っています。食事は毎日、手作りしており利用者の状態に合わせた食事作りを行い健康管理を行っています。お部屋は個室で愛用の家具や仏壇などご本人のなじみの物を置くことで自分らしさを出し心穏やかな毎日が過ごせるよう支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・事業所の理念の中に、「家庭的な環境の中でやすらぎと喜びのある生活の場を提供」との一文があり、一人ひとりがこれまでの暮らしの延長、継続が出来るよう、その人のペースで暮らせるように支援している。また職員は理念に基づいたケアの実践に努めている。  
 ・ユニット毎に3食手作りで利用者の状態に合わせた食事を提供している。また、行事食やイベントなどで食事を楽しめるよう工夫している。  
 ・運営推進会議を通して、地域とのつながりが深まり、事業所の理解者や協力者が増えている。ボランティアの受け入れも定期的に行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、事業所の目標をつくり、双方を事業所内の見えるところに掲げ、全職員で共有できるようにしている	法人の理念と事業所の目標を目のつくところに掲げ、毎月のケア会議の中で振り返り、支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会を計画し、施設に来ていただいたり、主事業所の夏祭りや文化交流会、行事などに参加し、地域の方々との交流を行っている	夏祭りや地域の行事に参加したり、ボランティアの方たちとの交流、受け入れなど地域との交流を積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において生活の様子や支援方法を伝え、推進委員の方々に理解してもらったり、家族や地域の方々との交流を通して、理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において生活の様子や支援方法、事故報告を行い、推進委員の方々から頂いた意見をスタッフ間で共有しサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催。事業所の現状や利用者の日常、取り組み状況等を報告し、推進委員からの意見やアドバイスは、職員で共有しサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には運営推進会議に出席していただき、色々な意見をいただき、参考になっている	市町村担当者は、毎回運営推進委員会に参加。事業所の現状や取り組みについて伝え、情報やアドバイスをもらっている。電話で相談することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人にて身体拘束の研修会を開催している。身体拘束の意味を理解し拘束をしないケアにとりくんでいる。安全対策のためどうしても必要な方には本人や家族に了解を得て行っている(センサーマット、窓の鍵など)	法人の身体拘束の研修会に全員が参加しており、身体拘束について正しく理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。「スピーチロックゼロ」の標語を掲げたり、また、安全対策のセンサーマットの使用については、本人や家族に了解をもらい使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権擁護委員会において話し合ったり、研修を行ったり、また「スピーチロック、ゼロ」の標語を作成して見えるところに下げている。		

事業者名:グループホーム笑みの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強する機会がもてていないので、今後は研修会等への参加をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の見学時、入居申し込み時に説明をし疑問点など確認している。そして、入居の契約時に重要事項説明書やその他の書類にて十分説明を行っている。解約についても家族と十分お話をを行った上でやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に対しては日常の会話にて要望等を聞き家族に対しては面会時や家族との懇親会にて意見、要望などを聞いている。	日々の関わりの中で利用者の要望等を把握し、家族からは面会時や家族会等で意見、要望を聞いている。また、意見が出やすいよう雰囲気づくりに努め、出された意見、要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケア会議において職員間で意見や提案を言い、話し合いケアの向上につなげている。	月1回のケア会議で職員から意見、要望を聞いている。就業環境や利用者のケアについて等、全員で話し合い、ケアの向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表にて個々の努力や意見を伝える事ができている。各自が向上心を持って働ける職場である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修会や外部研修の参加の機会をつくり、スキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会が減少し、ネットワーク作りができていないので、今後は取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時にご家族やご本人に心配なことはないか伺ったり、入居後はなるべく声かけを多くして、心配な事はないか、気に掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時にご家族に悩みや要望等を聞き取り、一緒に考え相談しながらケアを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの開始にあたり、ケアマネージャーがご家族やご本人から十分なアセスメントをとり、必要としている支援を取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者はお互いに助け合う関係性ができている。できる事をしてもらったり、家事の支援をお願いしたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて、ご家族に利用者の健康状態や生活状況を伝え、家族と情報の共有を行い家族の協力を得て、一緒に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親せき、知人、近隣の方々に気軽に面会に来ていただき、ゆっくりと過ごせるような環境作りに努めている。行きつけの美容院やお店に行けるよう支援している。	家族や知人などの面会が多く、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。また家族の協力を得ながら、一時帰宅や美容院など馴染みの場所への外出ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者それぞれの性格や生活スタイルを把握し、職員が中に入って関係性を築き、利用者同士がいたわり合う声かけができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に、退居になった後も不安な事や分からないことがあれば何時でも相談に乗る体制であることを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に添えるように、自分から表現しない入居者にたいしても言葉だけでなく表情や行動から思いや意向を把握できるようにしている。	日々の関わりの中で表情や会話から思いや意向をくみ取っている。表現することが困難な方は、表情や行動からくみ取るようにし、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や趣味等を本人、家族に聞き取り習慣やなじみの暮らしが続けていけるように心掛け居室にも馴染みのものを置いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックと日々の関わりの中で心身状態に変化があれば職員で話し合い、状況に応じて主治医に相談している。また、申し送りや毎月の会議で利用者の状況について話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者のできる事を職員間で話し合い、継続していける介護計画の立案、利用者家族の意向や思いを含んだケアプランを作成している。状態変化がある場合にはケアプランの見直し、3ヶ月に1回モニタリングを行っている。	利用者や家族の思いや意向を基に、出来ることを職員間で話し合い、実践しやすい介護計画を作成している。状態変化がある場合には介護計画を見直し、現状に即した介護計画が作成されている。3ヶ月に1回モニタリングが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日中、夜間の日々の状況、病院受信状況は個別記録に記入している。体調不良時は詳しく記録し共有し把握している。ケアの変更の必要性があればケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して現実性、客観性を踏まえ検討を深めている。必要な福祉用具があれば購入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	どのような地域資源があるか、活用できるか情報収集に努めながら、地域ボランティアを受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を尊重し、適切な医療が受けられるよう受診を支援している。	かかりつけ医の週1回診療があり、歯科や専門家の定期受診等は家族と連絡を取りながら通院支援し、適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックや身体観察を行い、異変が見られた際は同法人の看護師や協力病院と連携を行っている。連絡、報告が密に取れる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して治療に専念できるよう、又早期退院ができるように家族や病院関係者と連絡を取り退院後のスムーズな支援につながるよう、入院先に面会に行き、状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期、重度化についての説明をし、理解を得ている。重度化してきた際には家族と話し合い本人、家族の意向を聞き、状態によっては他施設への異動を支援している。	入所時に重度化や終末期の在り方について説明している。重度化した場合は事業所のできることを十分説明し、家族と話し合いを行い、本人・家族に意向を聞き、医療機関・法人特養と連携を図りながら支援に取り組んでいる。また本人の状態によっては法人特養への移動支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修会やグループホームの会議の中で知識を深めている。法人内にて看取りの研修会を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、防災避難訓練を行い、年に1回は消防署、警察署、地域の住民と連携を取り避難訓練を行い、協力体制を整えている。	毎月防災避難訓練実施。また、年1回法人全体の避難訓練を消防署、警察署、地域住民参加のもと行っており、地域との協力体制を築いている。連絡網も整えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の特性を理解し、受容し、尊厳を守り入居者一人一人に合わせた対応を行っている。トイレや入浴時はプライバシー保護出来ている。	人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう丁寧な言葉かけ、傾聴するなど一人ひとりに寄り添った対応が行われている。またアンケートで振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で入浴やおやつやの時間、過ごし方など入居者に声かけをしながら本人が自己決定が出来るような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを尊重しその方のペースでゆっくり生活ができるよう、希望に沿った対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院を利用したり、化粧品を購入する際の支援や男性は毎朝髭剃りの声かけを行ったりしている。また定期的に美容師に来てもらい散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを聞いたりしながら季節の食材を使つてのメニューを考えている。一人一人の力量に応じて、片付けを積極的に行つて頂いている。	3食手作りの食事を提供されており、好みや季節の食材を使った献立で、目でも楽しめるよう工夫されている。配膳や片づけなど出来ることを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録に残し栄養不足や水分不足になっていないか、常に状況把握に努めている。噛む力の弱い方には細かくしたり、ムセのある方にはトロミをつけて摂取しやすいようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士指導のもと口腔ケア後は口腔内の観察や仕上げ磨きを行っている。義歯は定期的に洗浄剤を使用し、口腔ケア用品は毎日消毒している。		

事業者名:グループホーム笑みの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援の必要な方にはご本人の訴えに直ぐに対応し、またさり気ない声かけにてトイレ誘導を行っている。一人一人のパターンを理解し、出来る限り自立した排泄にむけた声かけや誘導を行っている。	排泄の自立した方が多いが、本人の訴えやサインを見逃さず、さりげなく声掛けしトイレ誘導している。排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況を職員間で共有し、食事のバランスや水分量等に気を付けている。野菜の多い食事メニューを取り入れたり毎朝ヨーグルトを摂取して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やタイミングを見計らい、ご本人の希望を聞きながら入浴の支援をしている。入浴方法や介助の仕方など個人々に沿った支援を行っている。	午前中に入浴を知らせ、午後から利用者の体調やタイミングに合わせて、希望に沿った入浴支援をしている。無理強いせず週2回以上入浴など個々にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体力等、その方の身体状況に合わせて、個々に対応している。時間や室温、照明も個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者の服薬の内容を理解し、症状の変化に応じて治療や服薬調整に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好きな事、得意な事を把握し、それぞれに合った作業や趣味、レクリエーションを行い楽しみを持っていただいている。また、気分転換に散歩を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節の催しやドライブ、家族との買い物など外出は積極的に支援する方向ではあるが、最近ではウイルス感染予防のため外出できていない。しかし日常的に外気浴や日光浴などは行っている。	季節の花見、祭り、買い物、家族との外出等を支援しているが、コロナ禍で外出ができない中、中庭でのイベント、施設敷地内での散歩、ユニット合同レク月1回訪問など工夫している。	



事業者名:グループホーム笑みの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業者が預り金として個人個人のお金を管理しているが、施設の夏祭りや外出時に本人がお金を所持し、使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話で家族や知人に電話したり、かかってきた電話を取り次ぐことをしている。荷物や手紙が届いた際には連絡を入れ、本人と話してもらうなど近況報告を兼ねて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は利用者や面会に来られた方が不快な思いをしないように、音量や障害物に配慮している。季節感を感じられるような物品の配置を行い心地よく過ごせるように努めている。	共有空間は中庭からの自然な光が差し込み明るく、廊下にはソファやテーブルが置かれ、読書をしたり面会に見えた人とゆっくりと過ごせる工夫がされている。季節の花や樹木が配置され居心地よく過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に椅子を配置し、利用者同士で思い思いに過ごせるよう居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の意向または今まで使っていた馴染みの家具や仏壇、装飾品、写真を置くことで居心地の良い居室作りに心掛けている。	テレビ、椅子、仏壇、家族写真や趣味の作品など馴染みの物を置き、生活感のある部屋作りがされており、ベッドの位置など導線に配慮した居心地の良い空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態に応じて自立した生活空間の提供を心掛けている。安全面では生活の場に危険のないよう環境の整備に努め、安全に自立した生活を送っていただけるような工夫をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			
法人名	社会福祉法人 玖珠会		
事業所名	グループホーム 笑みの里②		
所在地	大分県玖珠郡玖珠町大字大隈322番地の2		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和2年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑みの里では家庭的な雰囲気の中で、季節行事の参加や行事に合わせた食事の提供を行っています。施設の周囲は山、田んぼで囲まれており、色移りゆく風景、田植え、稲刈りをしている風景を見て一年を通じて季節を感じて頂いています。入居者様一人ひとりを尊重し、出来る事を減らさないよう自立を目指した日常生活を支援する事で、生きがいをもって自分らしく自由でのびのびとした生活を送れるように努めています。  
また、職員が理念にもとづき、入居者様を主としたケアを行い、ゆっくりと関わりを持つよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム 笑みの里①に記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲示し、共有している。ケア会議や申し送り時に職員間で話し合い、その人らしい生活のリズムができるよう、理念の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会の開催をしていたが、近隣の方々の高齢化が進み参加して頂く事が難しくなり、交流会を行っていない。オレンジカフェの参加もできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での行事に地域の方、ご家族の方をお招きし関わりを持つことで、日々の様子を見て頂き理解を深めている。運営推進会議でも支援方法を伝え、認知症に対する理解や支援内容を共有して貰っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、入居者代表、家族、地域包括の方に参加して頂き施設での状況報告、事故報告、行事報告等を行い、意見や要望など伺いサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事業所の情報を伝え、介護保険に関することやサービスについて意見を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束についての研修を実施しており、禁止の対象となる具体的行為を確認している。身体拘束の意味を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。安全対策の為どうしても必要な方にはご本人、家族の了解を得てセンサーマットの使用をし、必要最低限の実施をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で全職員の理解と取り組みが出来ている。日々のケアの中で何が虐待にあたるかを常に考え、話し合い虐待防止に努めている。		

グループホーム笑みの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、該当者がいない事もありまだ職員全員が十分に理解されているとは言えない。理解を深めていくために学習する機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、入居申し込み時、入所時に説明をし、疑問点がないか確認をしている。家族との契約締結時には重要説明書やその他の書類を含めた説明を行い、希望や要望も聞いて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者様、家族代表、地域代表行政職員に参加して頂き、意見や要望をいただいている。また年2回開催の家族会やサービス担当者会議等の機会でも意見を伺うようにしている。意見箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議の中で提案や意見を聞き反映している。また、運営推進委員会、家族会、サービス向上委員会を設け意見・要望を聞き運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表にて個々の努力を伝える事ができている。各自が向上心を持って働ける職場環境を整えている。個々の資格取得には事業所も支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内での研修へ参加している。外部研修でも必要に応じて参加し、スキルアップに努めている。研修後には園内研修で発表し再度勉強を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日田玖珠グループホーム連絡協議会を脱退したので交流する機会がなくなったが、今後検討したい。		

グループホーム笑みの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居時にご家族やご本人にお話を伺ったりケアマネ等の情報を基に不安とされていることや支援して欲しいとされていることを確認し、安心して生活が送れる様に努めている。職員間で情報を共有し同一の対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時の家族の悩みや要望を聞き取り、ご本人が安心して生活出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、語加須kjに希望や要望を聞き、職員間で連携を保ちながら、サービスに満足して頂けるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者は一緒に支え合い、たたみ物、配膳、下膳等出来る事はして頂きながらお互い助け合う関係が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には入居者の健康状態や生活状況を説明し、一緒に支援していけるように家族との情報共有が出来るように心掛けている。時には家族の協力を得て本人をサポートできる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親せき、知人、近隣の方等に気がるに面会に来て頂き、お茶を飲みながらゆっくりと過ごせるような環境作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を考慮して、職員が間に入りレクリエーションを楽しんで頂いたり、関わりをもちながら一緒に作業等を実施出来るように支援している。		

グループホーム笑みの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居になった後も不安な事があればいつでも相談してもらえるような体制であることを伝えている。家族からの相談や支援に努め、関わりを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が生活の中で感じている思いや考えを聞き取るように努め、その中から本人らしい生活が出来るように意見を出し合って支援をしている。会話が困難な方に対してはご家族から意向を聞き取り、対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様から収集した情報だけではなく、入居前に利用していた介護保険サービス事業所からの情報も収集し、習慣や馴染の暮らしが続けていけるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックと日々の関わりの中で、心身状態に変化があれば職員で話し合い、主治医に相談している。申し送りや会議の中で入居者の状況報告を行い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の出来る事を職員間で話し合い、継続していける介護計画の立案、入居者家族の意向や思いを含んだケアプランを作成している。状態に変化がある場合にはケアプランの見直し、3ヶ月に1回モニタリングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日中、夜間の日々の状況、病院受診した状況は個別記録に記入している。体調不良時は詳しく記録にて共有し把握している。ケアの変更の必要性があればケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して現実性、客観性を踏まえ検討を深めている初めから困難と考えず、どうしたらできるかを考えている。		

グループホーム笑みの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	どのような地域資源があるか、活用できるか情報収集に努めている。また、地域ボランティアとの交流会やオレンジカフェへの参加によって楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院をかかりつけ医としている。眼科、歯科等の専門医への受診支援等適切な医療が受けられるよう、家族の了解を得ながら支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変が見られた際は同法人の看護師や協力病院と連携を行っている。連絡、報告が密に取れる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して治療に専念できるよう、また早期退院ができるように家族や病院関係者と連絡を取り、退院後のスムーズな支援に繋がるよう対応している。入院中は病院に面会に行き、状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に笑みの里では看取りをしていない事と重度化した場合には、事業所が出来る事も説明している。重度化した場合には本人、家族の要望を確認し主治医、看護師などと話し合い、方針を共有する。医療機関、併設の施設の移設も含めて思いに添える支援が出来るように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに沿って、医療機関に連絡している。園内研修やグループホームの会議の中で勉強会を行い知識を深めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災避難訓練を行い、年1回事業所全体での夜間防災避難訓練を行っている。園内研修で搬送方法の実技研修があった。		

グループホーム笑みの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の特性を理解し、受容し、尊厳を守り入居者一人ひとりに合わせた対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で入居者に声かけをしながらかご本人の思いを引出し、自己決定ができるような支援を行い、自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、その方のペースに合わせ穏やかに生活出来るように希望に添った対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を自分で選んだり、職員と一緒に選び、好みの服を着られている。選ぶことが出来ない方については提案しながら選んでいる。整髪、髭剃り等、日々できる限り自立に向け整容に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに合わせバランスの良い食事提供をしている。行事食や季節の食材を使つてのメニューを考え、喜ばれている。配膳、片付け等、積極的に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を把握している。水分量の少ない方については、確保できるよう工夫や嗜好品などの提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援の必要な方には職員が介助にて行っている。自分で出来る方はして頂くが、仕上げは職員が行っている。月に1回歯科衛生士が職員に対する口腔ケアに係わる技術的助言、指導を行っている為、口腔内の清潔保持と確認ができています。		



グループホーム笑みの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援の必要な方にはその人の行動に合わせて、さりげなく声かけを行いトイレ誘導を行っている。排泄パターンを理解し、出来る限り自立した排泄を促し、声かけや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排便状況を職員間で共有し、食事のバランスや水分量等に気をつけている。野菜を多く摂る食事メニューや毎朝ヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調やタイミングを見計らい、希望に合わせて入浴できるように支援している。入浴時は出来ない部分のみ介助するように心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態に合わせた日中の過ごし方を支援している。(体操、レク等)その日の状態に合わせて無理のないよう日中の休息対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬処方一覧をケースに入れ、全職員で把握し共有して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きな事、得意な事を把握し、それぞれに合った作業や趣味を生かし、役割分担や楽しみを持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見やドライブに出かけましたが、11月頃よりインフルエンザ流行の為外出が出来ていない。		

グループホーム笑みの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より預かり金としてお預かりしている。 必要なもの等、欲しいものがあれば職員が買ってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方や、知人、友人への電話連絡等はご本人の希望に応じいつでも出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は入居者や面会に来られた方が不快な思いをすることがないように、配慮している。季節感を感じられるよう、時季のお花を置いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に椅子を配置し、入居者同士で思い思いに過ごせる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の意向又は、今まで使っていた馴染の家具や装飾品、写真を置く事で居心地の良い居室作りに心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態に応じて自立した生活空間の提供を心がけている。安全面では生活の場の危険のないように環境整備に努め、安全に自立した生活を送って頂けるよう工夫している。		